

第3回 備前市総合教育会議 議事録

1 日時 平成27年6月23日(火) 15:05～16:15

2 場所 備前市役所 3階 大会議室

3 出席者

(1) 構成員 吉村武司 市長

杉浦俊太郎 教育長

更谷暢久 教育委員

高橋千亜紀 教育委員

越智聖名 教育委員

駒澤 勝 教育委員

(2) 事務局 藤原一徳 総合政策部長

佐藤行弘 企画課長

大西健夫 企画係長

(3) 関係者 谷本隆二 教育部長

芳田 猛 教育総務課長

磯本宏幸 学校教育課長

有吉隆之 市長室長

大岩伸喜 危機管理課長

大西武志 保健福祉部長

今脇誠司 こども育成課長

4 協議事項

(1) 緊急の場合に講ずべき措置について

5 議事内容

○事務局(藤原部長) それでは、ただいまから備前市総合教育会議を開催いたします。

本日は、お忙しいところ会議に出席いただきまして、大変ありがとうございます。

まず初めに、吉村市長からご挨拶を申し上げます。

○吉村市長 はい。本日はご多忙の中、教育長をはじめ教育委員の皆様方にはご参集いただきましてありがとうございます。

本日の会議は、総合教育会議の協議事項3点のうち、「緊急の場合に講ずべき措置」

をテーマにして、本市教育にご尽力いただいている皆様と意見等を交換して、お互いの対応について確認していきたいと考えております。

また、協議後に少しお時間をいただき、教育関連の事業として、小・中高生を対象に実施しております国際交流事業について、今年度の状況等をお伝えさせていただきたいと思います。

さて、先日の緑陽高校で発生した事案では、私を含め多くの方が非常に残念な思いをしたわけであります。現代では、他者への思いやりが欠如をしたような事件等が時折発生しており、こうした教育問題は、いつでもどこでも出てくる可能性があるわけで、人間を愛ある方向へ導いていくという大変大きな命題を常に抱えておられる教育界の皆様にご苦勞をかけているのではないかと察しております。

教育に特効薬はありませんので、私は家庭と学校と地域社会がいかに協力し合って、三位一体で協力を重ねていくことに尽きるのではないかと考えております。

単に学び、知り、自分の人生を豊かにするだけでなく、人と人とのつながりをつくり、そしてそれぞれの役割や存在意識を確認し合い、健全な人と社会を創造するための土台づくりを根底に備えた教育をしっかりと推進しなければならないと感じております。

どこよりもここ備前で、子供たちの元気な声があふれ、子育てに喜びや楽しみを感じ、安心して子供を育てられる環境づくりを進め、「備前の子供は備前で育てる」という思いを皆様と共有して、教育のまちづくりを加速させていくことを願ひまして、開催に当たっての挨拶とさせていただきます。

本日もどうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局（藤原部長） 続きまして、教育長からご挨拶をいただきます。

○杉浦教育長 はい。皆様、本日はありがとうございます。お忙しいところをお時間いただいて恐縮でございます。

今、市長からもありましたけれども、本日のメインの議題が、緊急時にどうやって子供たちを守っていくかというようなことを、不幸な事件がありましたけれども、それをきっかけにあらゆる分野において、総合教育会議でそれを議題として話し合っていくというためにも必要な会議かなと考えております。

私、2カ月ちょっと備前市を回りまして、どうしても地域と学校との結びつきというのが大変強い地域もあれば、もう一つ課題のある地域もあって、地域、家庭、そして

学校、市長がおっしゃった三位一体、これをどういう形で進めていくかということが非常に大事になってくるかなと。それはやはり一瞬で判断をしなければいけないような緊急事態においてこそ、そういったことの重要性が高まってくるのかなというふうに思います。

私も今回、隣接する片上小学校の下校時に、少しでもという思いで現場に立って、小学生の下校の見守りをいたしましたけれども、やはりそうやって間近に子供たちの顔を見ると、なおさらこの子供たちを何としても守らなければいけないという決意をまた新たにしておりますので、今日はしっかりとした議論をお願いしたいなというふうに思っております。どうぞよろしく申し上げます。

○事務局（藤原部長） はい。続きまして、本日の出席者の紹介をさせていただきたいと思います。なお、本日初めての方のみの紹介とさせていただきたいと思います。

お名前をお呼びしますので、その場でご起立の上、一言自己紹介のほうをよろしくお願ひしたいと思ひます。

入江前委員の任期満了に伴いまして、新しく教育委員になられました更谷暢久様でございます。

○更谷教育委員 はい。更谷暢久と申します。

今現在、私は日生町の連絡協議会の会長という職をいただいております。それと、環境のほうでは備前市環境衛生指導員の会長を務めさせていただいております。

住民の目線からということで、今回教育委員になりましたが、そういう目線から教育、学校の生徒たちの見守りとか、そういうのをこれからもやっていきたいと思ひますので、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局（藤原部長） ありがとうございます。

続きまして、関係者のほうを紹介させていただきます。

教育委員会事務局から、磯本教育部学校教育課長でございます。

○磯本学校教育課長 学校教育課長の磯本です。よろしくお願ひいたします。

○事務局（藤原部長） 市長部局から有吉市長室長でございます。

○有吉市長室長 有吉です。よろしくお願ひいたします。

○事務局（藤原部長） 同じく大岩危機管理課長でございます。

○大岩危機管理課長 危機管理課の大岩です。よろしくお願ひいたします。

○事務局（藤原部長） 大西保健福祉部長でございます。

- 大西保健福祉部長 大西です。よろしくお願いいたします。
- 事務局（藤原部長） 今脇保健福祉部こども育成課長でございます。
- 今脇こども育成課長 今脇でございます。よろしくお願いいたします。
- 事務局（藤原部長） それでは、この後の進行につきましては、運営要領第3条に基づきまして、総合教育会議の議長であります市長にお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。
- 吉村市長 それでは、本日の協議事項であります「緊急の場合に講ずべき措置について」に入らせていただきます。
- 事務局より説明を願います。
- 事務局（佐藤課長） はい。それでは、6月9日に発生した備前緑陽高校爆破予告事件の事案につきまして、市長部局と教育委員会の両方の経過等を事務局のほうで取りまとめさせていただきましたので、主なもののみの説明とさせていただきます。
- 6月9日11時30分ごろ、片上高校副校長から教育委員会へ、今朝、備前緑陽高校の生徒の下駄箱に備前緑陽高校を爆破すると書いた紙が入っていた。緑陽高校はこの後生徒を下校させ、片上高等学校も今日の登校は取りやめるという連絡が入っております。
- これを受けまして、11時50分、教育委員会で協議。片上小学校も給食終了後下校させるということになりました。
- あわせまして片上認定こども園も同時刻に降園させるということとして、保護者に連絡するように指示をしております。
- 13時ごろ、教育総務課及び企画課から各教育委員に事件の一報を連絡させていただいております。
- 13時50分、小学校の下校が完了しております。
- 続いて14時、こども園の降園が完了しております。こども園のほうでは、保護者のお迎えが間に合わなかった場合には、保健センターにて一時預かっていたということをしております。
- 6月11日木曜日でございますが、備前緑陽高校へ再び生徒の下駄箱に手紙が入っていたということがございました。
- 同日23時1分、備前署が市内在住の高校1年生男子生徒を威力業務妨害で逮捕したということとなっております。

12日朝になりまして、この旨の連絡が入っております。

非常にかいつまんだ説明ですけれども、事件の概要については以上でございます。

○吉村市長 事務局の説明が終わりました。

それでは、ここから協議ということでございますので、意見交換に入りたいと思います。まず、経過についてのご質問のある方は発言を願いたいと思います。

○更谷教育委員 よろしいでしょうか。

○吉村市長 はい、どうぞ。

○更谷教育委員 6月9日10時ですね、これ。警察への報告、通報されたというのがちょっと遅いんじゃないかと、私思うんですけどね。いかがなんでしょうか。

○吉村市長 事務局より説明願います。

○事務局（佐藤課長） この部分につきましては、緑陽高校の中でのお話ということもございます。備前市のほうとしては、できるだけ早くご連絡がいただきたいとは思いますが、申し訳ございませんが、ここについてはコメントができませんので、ご了承いただきたいと思います。

○吉村市長 緑陽高校は県立の高等学校でありますから、推測ではありますが、まず一報は県の教育委員会、あるいは総合教育会議を主宰します県知事に一報が入り、また備前警察署等に同時刻に入ったものと思われまして、で、約1時間30分、教育委員会へ来るまでに時間もかかっております。これは大事になりませんでしたけれども、万が一のことが考えられますと、その1時間30分ということは大きな時間のロスでもあらうかと思えます。私が言うのもあれですが、こういう事案が新しい制度において、岡山県内で初めて発生したのではないかと思われまして、よく知事とのトップミーティング等を通じて、県の総合教育会議あるいは教育委員会、警察等、地元で隣接しております小学校、こども園を設置、管理しております備前市との時間的な差が本当にならないように、今後の課題だと、私も報告を見て思っております。

はい、どうぞ駒澤さん。

○駒澤教育委員 同じ趣旨のことなんですけど、連絡が入ってから、給食を食べてから下校というのは、僕はいかにも生ぬるいような気がして、事情はわからんこともないような気もするんですけど、万が一を考えるんでしたら即座にというのが、この下校が必要だという判断なら時間の余裕はないはずだと、私は思いますが。

○吉村市長 事務局から追加の説明。はい、それじゃあ学校教育課長。

○磯本学校教育課長 はい、失礼いたします。

1つが、もう給食の準備ができてしまっていたということ、もう一点が保護者に連絡をとらずに下校するわけにはいかないの、それぞれの保護者へメールとか、メールの登録をしていないところには電話とかで連絡をとって下校させるということでの受入態勢をとということで時間をとる必要があったということもあります。以上です。

○駒澤教育委員 はい。

○吉村市長 はい、駒澤さん。

○駒澤教育委員 それなら、どこかに退避という段階が一つ要るのではないかと思います。下校が必要だという判断だったら、退避というのを、どこかへ退避して、そこから下校、あるいは保護者に渡すというステップが要るのではないかというふうに思います。

○吉村市長 よくアメリカで学校で大変乱暴な事件が発生するのを、我々ニュースで目にするわけでありますが、あのような凶悪な事件でも、いわゆる生徒さんやお子さんがまずその現場から退避させておるニュースを見えています。この場合、結果的にはこのように終わって、今後の捜査を待つしかないんですが、ただ余りにも一報が衝撃的な内容でありましたし、緑陽高校と片上小学校あるいはこども園は、本当に隣接しているということですから、規模が、これは仮定ですけども、本当に大きなことでしたらそれこそ爆風や、あるいは方々ガラスが飛んだり瓦が飛んだりすることもありますので、先ほども退避というのが一番避難をするということで大事だろうと私も思うんです。

たまたま昼食の準備であったということと、今学校教育課長から保護者に連絡をといたのがありましたが、確かに時間的に、何にもなかったからいいんですが、もし何かあつとつたら、これは食事どころか、あるいは親御さんが迎えに来るまでに安全な場所にお子さんを避難させんならんはずですよ。その隣接地であつたということを考えますと。

それともう一つ、この近隣に住宅地であつたということですね。やはり町内会はじめ、その規模によって詳しいことはわかりませんが、住宅地が周辺にたくさんあるということ、それから道路が2カ所ですね。旧片上鉄道沿線と、それから川沿いにあるわけですから、いわゆる交通制限ですか、通行制限をしないと、あの場合は…。それは警察がしとつたんかどうかわかりませんが、その周辺に半径何メートル以

内は通行差しとめというようなことも、教育委員会から市が一報をもらったときには続けると。

特別にそういうような体制は、自治会等を通じてお願いをしましたが、より具体的なロールプレイングをしておく必要はあろうかなという気もいたしております。

○杉浦教育長 ちょっと1点。

○吉村市長 はい、どうぞ。

○杉浦教育長 私は若干、ちょっと考え方が違うんですけど、実はこれはこの事件のときだけじゃなくて災害のときもそうなんですけれども、周りの状況をきちんと確認せずに、単に退避するためだけに不用意に外に出ることのほうがリスクが高い。しかも、緑陽高校の横を通学路にしている子供たちも非常に多いという現状からすると、片上小学校の校舎の中ほど安全な場所はなかったと考えます。やはりきちんと保護者への連絡というのももちろんですけども、その間に警察が捜査を進め、やはり沿道の警備等も、警察の車両が到着してきちんとその体制がとられていることを確認しないで、単に避難させるんだというほうが、私は危険が高かったと思ひまして、今回の判断、給食を食べさせたということだけを取り上げて言われると確かに遅いのもかもしれませんが、あらゆる可能性を考えて避難ということを考えないと、私は教育委員会としてはゴーサインを出せないというふうに思います。

○吉村市長 今後の対応等にも今踏み込んだご意見が、教育長から出ておりましたので、それも含めて経過及び今後の対応等について、ご意見等を聴取したいと思います。ご遠慮なくお願いしたいと思います。

事務局に聞きますが、当然これは教育委員会に第一報が入ったのは当然だと思いますが、それを通じて市長部局のほうに連絡がありました。その地域に住んでおる住民の方への連絡、あるいは道路が両脇にあるわけなので、その通行止めということ、警察がそういう指揮権を持っておられると思うんですが、特に住民に対する説明、協力依頼、この辺は教育委員会は小学校、こども園という範囲で見られると思います。そういうことでいくと、事務局、どうなんですか。そこの対応いうのか、今後の対策について、同類の案があったとき、参考になる意見があったら教えてください。

○大岩危機管理課長 はい。危機管理課の大岩と申します。

私がこの第一報を聞いたのが12時半でございまして、その後、備前緑陽高校がどの

ような状態かを聞きまして、それから警察のほうにこの件について地区への放送とか、そういった広報はどうしたらいいか、捜査上の問題がありますんで、それとあと爆発物ということでパニックになったらいけないので、その避難所の開設だとか、そういったことも考えて警察に相談しました。

そして、警察のほうの意見といたしましては、脅迫文の内容とか、それを考えて、避難所までは…というような感じで言われたんで、一応こういったことがありましたということで、地区に13時15分ぐらいにお願いに行きまして、その後、地区のほうから放送をしていただいたという感じになりました。

だから、ある程度警察のほうも、脅迫文見て、これはというような感じで考えていたとは思います。

以上でございます。

○吉村市長 どうぞ、対策を含めて経過のことで、時間的な差を縮めなきゃならないとか、あるいはこういう場合が残念ながら再発したときには、我々はこの会議で話し合うようにしなきゃならないと。

事務局に聞きますけど、こういうような、学校の子供がおもしろ半分でいたずらでやる場合と、本当に何かしたろうと思って脅迫文をロッカーに置いたり、ポストに入れたりする場合がありますが、最近全国でこういうたぐいの事例というのは、ここ1年間ぐらいはどうなんですか。何か事務局、把握しておられますか。

○大岩危機管理課長 把握はしてございません。私、ちょうどこの事件の前に6月3日でしたかね、どこかの市役所、どこかの市役所でしたかね、爆破予告がありまして、市役所のお客様全部逃がすというのをしたんですけども、それが今どのくらいあるかというのは、ちょっと資料的には持ってございません。

○吉村市長 私なんか新聞でときどき百貨店とか駅にこういうのを仕掛けたいうのをニュースで見ることがありますが、本当にこの備前市の片上にある高校で発生したというのは、一報を聞いてびっくりしたところです。

それからもう一つは、これは個人情報のことがあるんでしょうけども、これは学年はもう新聞に出てますからね、言うてもええんですかな。高1ということですね。高1というのは3月まで中学3年生だったということですね。ですから、6月で考えますと、2カ月少々、新学期が始まるのが4月上旬としましても2カ月少々で、内容からしましてもなぜあのような内容のものを出したのか。2カ月前に中学生だったというこ

とから考えると、その内容に大変ショックを受けました。

はい、どうぞ。

○駒澤教育委員 その前、最初の問題がありますので、一般的にこういう事例の場合には、警察に連絡すると警察からいろんな指示はないんですか。どうしろという、そういう…。そこを教えてください。例えば、やはりプロが指示してくれるのに従うのが一番無難な方法では、経験に基づいた、あるいは可能性に基づいた方がいいと思うんですけど、そういう指示はないんですか。

○吉村市長 どうぞ、事務局。

○大岩危機管理課長 危機管理のほうで警察とかいろいろ、刑事課とか安全課がある。こちらから情報をとりに行かないと、向こうからはまず教えてくれないです、捜査上の問題ということで。なかなか…。

○駒澤教育委員 その捜査の話と、もう一つは住民の安全ということに関してはどこも、今の責任者はいないんですかね。

○大岩危機管理課長 警察のほうから直接にこうしなさいという指示はないです。

○駒澤教育委員 ないんですか。

○大岩危機管理課長 はい。

○杉浦教育長 ここにも書かれていますけど、問い合わせたら、バタバタしているので、こちらまで手が回らないと。

○駒澤教育委員 いや、それは警察でもいいです。じゃあ、いよいよまた危機管理室ですね。

○大岩危機管理課長 情報を取りに行くしか…。

○杉浦教育長 緑陽高校は当事者ですから、警察からの指示は当然あったと思います。それは推測ですけどね。これまでの前職の取材経験からいっても、そういういった感じではないかと。今回緑陽高校の中という、極めて限られたところだったので、警察も何か状況が変わればという言い方をされたんだと思いますが。

○吉村市長 それと、この経過にもありましたように、1日置いて11日には、再度下駄箱に手紙が入っていたと。もうこの辺が本当にどういうことで……、いわゆる精神的な、心理的なことが、高校1年生になってからあったのか、あるいはその以前からあったのか、高校生いうだけで、男子生徒だけのということですからわかりません。

それ以上の情報はないんですね、今日は。

○谷本教育部長 はい。一報を受けて対処を中心になって考えさせていただいたのは私なんですけれども、警察から、脅迫文の文面だとか、それから内容等についてはとめられておりますので、この会議の中でも余り詳しくは触れないほうがよかろうかというふうに考えております。

先ほど大岩課長もおっしゃられたとおり、片上小学校、それから認定こども園については、第一当事者ではございませんでしたので、警察からのやはり連絡等は二次的にならざるを得なかった。ここのところは否めない事実かと思います。

以上です。

○吉村市長 事務局に聞きますが、6月9日に発生しましたですね。それで、逮捕されるのが11日の夜中、23時頃。要するに明るく日は、その当日は皆さん、集団下校しておるわけですから、10日の日ですね。子供は登校したわけです。このいわゆる10日の日の対応というのは、まだ容疑者がわからない。前日は集団下校させておる。少なくとも片上小学校、こども園は隣接している。ここも登下校、いわゆる登校ですね。これについては特別にする必要が、まだ容疑者が逮捕されていない中で、翌日、11日の夜中に初めて逮捕されたと。その間、住民、緑陽高校の付近の住民及び翌日の小学校、片上こども園の登校等については、あるいはその付近の住民に対して、もちろん両方が少ない中で情報を流すわけにいきませんが、そういう問い合わせ等にご父兄や地域の住民からごらんとか、あるいは翌日の方向について何らか意見はなかったですか。

はい、どうぞ。

○谷本教育部長 はい。まず、その事件のあった6月9日、当日の夕方ですね。翌10日はどうしようかということが一番の協議案件となりました。警察が4時過ぎに緑陽高校内を全部捜査されて、特に不審物はなかったという連絡を受けた中で、緑陽高校についても授業を10日は通常どおり再開するというご連絡を受けました。このため、小学校、それから認定こども園についても、翌日は通常どおりという判断をさせていただいたというのが、まず1点ございます。

それから10日ですけども、ご父兄とか、その辺から特段の問い合わせ等はございませんでした。この日はちょっと私も気になりましたので、自転車道をずっと歩いて、小学校の横を歩いて仕事のほうへ来させていただきました。いつもどおり小学校へはグループで登校されていまして、保護者の方も何人かついてきていただいているとい

うのが実情でございます。

それから、その日どうだったか、ちょっと記憶はないんですが、学校ではよく校長先生なり教頭先生なりが出てこられて、一緒に見守りをされていますので、この日もまず同じようなことはされていたものというふうに考えております。

10日の状況については、私のほうで把握しているのは以上でございます。

近隣については危機管理課からお願いします。

○大岩危機管理課長 はい。私のほうに入ってきた電話が1件だけあったんですけど、それは当日、放送を2時ごろ、地区のほうの放送を学校のすぐ近くの地区なんで新屋敷地区と福原地区に、慌てないで、今警察が捜査してますというような感じで放送したときに、放送が遅いんじゃないかという電話が1件だけ、翌日でしたかにありました。

10日の朝につきましては、うちのほうも防犯パトロールとしてスクールポリスの方が早出したり、警察の方がもう早くから学校付近に立ってくださっていましたのを確認しています。

あとは、何も報告はございませんでした。

○吉村市長 議長として、私は9日から容疑者が逮捕されるまで、あるいは本当に安全を確認されるまで、万が一のことがあったら、これはそれこそ逮捕の結果を見たら1人の単独で、いわゆる嫌がらせというんですか、これからも本当にこの備前市というこのまちでしたらあれじゃけども、これが果たして都会や、あるいはこういうことが頻繁に起こっておるようなアメリカなんかは、こういう容疑者が検挙されない中で爆発物となると、それこそ探さんともうあかんわけなんで…。2回目も1日あけて同じように下駄箱に手紙を入れる、要するにその間はずっと計画しとったわけですから、手紙の内容は爆発物ですが、それがナイフとか、そういう刃物に意思が変わっておれば、当然その爆発物じゃなしに、時間の経過の中で刃物とかなんかを今度は忍ばせていく可能性も、これは全く当人しかわからないことでありますけども、危機管理をする上においては、やはりあらゆる想定をしとく必要があらうかと思います。

たまたま私はこの日曜日に大阪でICTの教育がありまして、そのセミナーの聴講に行ったんですが、そこに来とった子供が、たまたま大阪大学附属池田小学校の4年生の子供が32名、ICT教育という想定で約1時間半ばかり来ておりました。

私が池田附属小学校というレジュメを見たときに、すっと思ったのは大きな事件で、本当に悲しい結果に終わったわけです。その犯人はもう既にたしか刑が確定したと思

うんでありますが、全くもう何のこともなしに持って行って……。ですから、この爆発物、2日目も爆発物ということですから、ほかに考えてなかったんかもわかりませんが、それは11日の2回目の手紙で同じような内容であったというだけで、その爆発物がいつ凶器に変わるかもわからんのですね。しかも、容疑者も11日の夜中、23時1分逮捕ですから、その間、爆発物だけではなくに、いわゆる凶器を持って路上や校内で云々ということも考えられるということは、結果論ですけども、やはり危機管理上は押さえてかないと。文面だけで、それ以外の犯罪行為をしないということはないわけなんで、その辺は私、本当にびっくりし、また結果的にこの高校1年生の逮捕ということに驚いておるんですけども、この2日間というのは大変長い時間に思いました。そういう爆発物という1点だけで捉えるのは、他の凶器を持って犯罪に及ぶということも考えられる内容ではないかと思えますけどね。

その辺は事務局のほう、どうですかね。学校の中の教育委員会というんじゃなしに、いわゆる容疑者がわからないまま約2日間あるので、爆発物というものだけで、爆発物があるないは別として、まだ容疑者が逮捕されておらない中で、いろんな凶器を持ち込む、あるいは持っていくという可能性はあるんでしょうからな。その辺の想定も、我々対策本部をつくって、そこで協議をしたんです。そこら辺が今後課題かと思うんです。

何か事務局でありますか。

○大岩危機管理課長 はい。わかりました。私どももちょっとわからない面があるんですけど、実際に脅迫文を見る限りは……。その辺もありまして、警察のほうも捜査上のことでなかなか教えてくださるんですけど、防犯カメラだとか、ずっと見て回ったんで、その辺は何かあれば指示が何かあるのかなとは思ってたんですけども、いろんな面がありますので、今後はそういうところも考えていきたいと思えます。はい。

○吉村市長 教育委員さん、いかがですか。新しい総合教育会議ができたのも、大津のいじめ死亡事件、事故がきっかけであるということで、教育委員会と市長部局でこういう事件については素早く対応して、大事に至らないようにという中で、最近も例の川崎で起こった件、それからもう一つこの間も川でありましたですね。そんなことを考えますと、本当に高校生、何も中学生がいいとか云々じゃなしに、そういうものを早く発見し、カウンセラーとともに早く対応する必要性は、ここ数年大きな課題になっておると思えますね。

- 更谷教育委員 よろしいですか。
- 吉村市長 はい、どうぞ、更谷さん。
- 更谷教育委員 この警察へ通報、10時になっているんですが、校長先生はどう思っているの。早かったんか、遅かったんか、今はどういうあれかわかってませんか。
- 吉村市長 どうぞ、事務局から。校長先生は、この一報をもらったのを早いと思ったんか。
- 谷本教育部長 その10時というのは、緑陽高校が警察に通報した、その時間の10時のことでしょうか。
- 更谷教育委員 はい、そうです。
- 谷本教育部長 申し訳ございません、これは私どもでちょっとそこのお伺いするところができないものと考えております。県立ですので、まず県の教育委員会のほうへ相談をかけ、と同時に警察のほうへ通報されたんではないかとは思いますが、そこのお伺いは我々のほうでは申し述べるわけにいかないと思います。
- はい、越智さん。
- 越智教育委員 岡山県、全国的にも岡山県でもすごく珍しいというか、大変な事件だったわけですが、逮捕に至りまして、この生徒さんが警察での処分だとか、学校内での処分だとか、それからマスコミにも騒がれるほどの大きな事件になった、この後、この生徒さんはこの学校に果たして普通に帰れるものなのかとか、そういったことが気になりますし、もう一つは先ほどの警察の捜査のところで、防犯カメラ等を警察の方がチェックされて逮捕に至ったとかいう話で、私、こういう事件をきっかけに、教訓に、また何かが変わらないといけないのであれば、こども園とか幼稚園あたりに防犯カメラが設置されているのは幾つか目にしたのでわかるんですが、小学校、中学校がいわゆる防犯カメラを設置しているのは余り聞いたことないなど。不審者対策だとか、こういった事件が度々いろんなところで起きるとも思いますが、やはり危機管理の意味でも、あるにこしたことはないのかなというふうに思いました。小・中学校では、どこかあるんでしょうか。
- 吉村市長 防犯カメラは、こども園には何か扉のところに、小・中学校の校内には、今日現在はどうなんですか。
- 大岩危機管理課長 はい。まず、保育園、幼稚園につきましては緊急通報ということで、ボタンを押せば警察に連絡が行くような装置を、全部の園でつけているみたいです。

それから、認定こども園につきましては3園、全部玄関に防犯カメラをつけているか
と思います。

それで、三石小学校はP T Aさんの寄贈ということで、玄関と何か裏門のほうに防犯カ
メラを校内用につけているということは伺っております。

それで今、うちのほうは昨年から防犯カメラ、昨年在17カ所24台、防犯カメラを
設置しまして、今回が一応35カ所49台の設置で、今現場のほうはどこにつけるか
回っております。その中で、ない小・中学校につきましては、校門近くの通学路の辺
りに防犯カメラを設置したいと考えております。

以上です。

○吉村市長 今、こども園等は、通報したら警察に行く、あるいは門扉のところに防犯カ
メラがある。こういうことは本当に大切なことなので、今現在七十数カ所、これは岡
山県でも昨年の倉敷の事案で、備前警察署の要請もありまして、多分県内の市町村で
は、公でやります防犯カメラが一番数が多いと思っております。

たまたま幸いにも県の補助金もついておりますので、やりやすくなってはおりますが、
一番数は多いと思いますが、我々は今までいわゆる学校帰りで、学校の中を道路から
見えるようなところを主に、それは結果的に録画しておりますから、その後の捜査に
は役に立つんでしょうけど、即効性からしたら、それこそそういう犯人いますか、
そういう人が突然学校に入ってきたら、私時々テレビで見ますが、みんなでこうい
うものを先につけたもので押さえる。その間に警察に呼ぶ係とかいうようなことでは
すが、そういうこともそれは全部準備する必要ありますけども、やはりこういう時代で
すし、これからも危機管理上、保育園を含めて、こども園、幼稚園、小・中学校につ
いては、ひとつ事務局のほうで、一遍にできることとできないことがあるんでしょ
うけども、年次的に対応をして、教育のまち備前ですから、教育機関の中でそういうよ
うな犯罪が発生しないように、未然に被害が出ないように、是非これを教訓にして、
よりいい警備体制といいますか、そういうものはしていく必要があると思いま
すから、事務局のほうでもよく相談をしてみてください。

ほかに。はい、どうぞ。

○駒澤教育委員 今の犯罪のバックグラウンドということで、最後の最後のところで今の
防犯カメラというか、今後どのように揃えるかというような話もさることながら、そ
ういう犯罪者にならないような、そういう教育こそしていかなければならないと思いま

す。これ本当は大変難しいんですけど、実は、今私たちが思う以上に子供たちは予想外の行動をする可能性があって、本当、今の一步手前のことは幾らでもあるんじゃないかと思って、川崎の事件にしても、その一步手前のことはたくさん世の中にはあるのではないかなというふうに思いますが、それこそ平素から、1つはその地域全体で子供たちを健やかといいますか、素直といいますか、生かすようなことを本当にいつも考えるような、平素考えなきゃいけないというふうに思いますので、これをすればいいという特効薬なんてとてもないと思う。今の世の中そのものが文明の発達ということから、こういうものだと思うと。アメリカの後を日本がずっとついていって、その後を韓国がちゃんとついてくる。それは文明の発達の度合いによって多様なものであるということは、文明というのはそういうものですから、心しなきゃいけないんじゃないかというふうに思いますので、子供たちを守るというのは、そういうことをしなくても済むような子供に育てるといって一番大事なところだと。そのためには文明の発達を諦めなきゃいけないところがあるんじゃないかというふうな気がしますけれども、そういう方向で大きな課題ですけど取り組んでいかないといけないと思います。

○吉村市長 事務局から何か回答ありますか。

容疑者の方がこれから取り調べを受けて、徐々に我々もわかっていくことがあるんでしょうけども、こういうことを私言うてええかどうか。2カ月前までは中学生であったと。この緑陽高校ですから、市内の在住ということですから、基本的には3月末まで備前市内の中学校におったんだろうと。高校になって市内に在住したことの可能性のほうが少ないんでしょうから、いわゆる中学校が備前市内の中学校におったんだろうと。それが高校生という環境の変化か、それは私もよくわかりませんが、こういうようなことで、市内在住の高校1年生ということで、本当に小学校の高学年から中学校にかけて、体の成長と心の成長と、それからいわゆる学力のバランスが本当に大事なところだろうと。それがもう我々のまちで、この間卒業式をしたばかりの、多分高校1年生だろうと想定はするんですけども、いろいろな責任を預かっておる私も、大変な、今後ますます、市長から見たいろんな準備をしなきゃならないと思っております。

教育委員の皆さんに、あるいは現場の校長先生はじめ教育関係者、それからPTA、保護者の皆さん、本当に大きな課題を与えられたと思っております。

それでは、大体いいですか、この件につきましては。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○吉村市長 それでは、ほかにございませんでしたので、引き続き会議を進めていきたい
と思います。

次に、その他でございます。

1点目は、教育関連事業として国際交流事業についてご報告をさせていただきます。

事務局からお願いします。

○事務局（佐藤課長） 資料をごらんください。

韓国、オーストラリア、アメリカ、それぞれ派遣するという事業をここへ掲載させて
いただいております。

以上でございます。

○吉村市長 この3点につきましては、備前市のほうも事業の予算がついておりますの
で、是非実行をしたいと思っておりますが、実は韓国で、今日もお医者さんがおられ
ますので、私が新聞で見ただけですが、MARSという感染が広がっているというこ
とでございます。韓国とは隔年ごとに子供たちが交流をしておりますが、その資料に
あります※を見ていただいたらと思っておりますが、MARSの今日現在の影響を考慮しま
すと、子供たちについては今年度、今日の時点では中止をすべきということを市長部
局のほうで対応をさせていただきたいということをご報告させていただきます。

海外旅行なものですから、その前日とか派遣の1週間前とかいうわけにはまいりませ
んので、一応月曜日にたまたま、これは皆さんに渡しているのかな、新聞の資料。

○事務局（佐藤課長） はい。

○吉村市長 新聞の資料にも載っておりましたように、県内の高校も修学旅行を中止して
おるということでもありますので、この別の3ページ目を見ていただいて、ニュースを
見ますと城東高校が韓国研修を延期ということが載っております。

我々が派遣するのは小学校の子供でございますので、まだまだ小さいお子さんなの
で、対応力が少ないということで、今現在も毎日ニュースで発表されております感染
者が広がっておる。それに死者も出ておるということなので、海外旅行ということ
で、市長部局では韓国への派遣は今回見合わせようと。市長部局のほうで指示させて
いただいておりますので、ご報告をさせていただきたいと思っております。

何かご意見がありましたらお受けをいたします。

オーストラリアとアメリカについては、その資料に載っていますように、今現在の人

数はそのような形ではありますが、費用等を十分考慮した上で回っていただければと思っております。

それでは2点目、3点目は、事務局から説明をしていただきます。事務局、お願いいたします。

○事務局（佐藤課長） はい。2点目、3点目につきましてご報告申し上げます。

次回の会議の日程につきましては、今封筒に入れてお配りをしておりますが、先ほどお聞きしますと、次回教育委員会が7月30日になるというふうにお伺いいたしましたので、28日のご案内としておりましたが、7月30日木曜日の時間は同じく13時から14時ということで予定をさせていただきたいと考えております。

まず、2点目が以上でございます。

次に、添付しております資料の現在募集中の教育大綱（案）に対するパブリックコメントについて、次回会議でご意見に対する回答を協議していただくということを考えております。

今ここに用意させていただいておりますのは、6月19日までに寄せられたご意見と、それに対する回答案でございます。ご確認いただきまして、回答案につきましてご意見等がありましたら、7月15日水曜日までに事務局にご連絡いただきたいと思います。

なお、今日以降、追加のパブリックコメントが出てきた場合には、今月末で取りまとめをさせていただきまして、改めてお送りさせていただきますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○吉村市長 はい。今事務局から説明がありましたように、今日現在17のパブリックコメントを市民の皆さん方、関係者から頂戴しておりまして、そのご意見に対する考え方、いわゆる回答につきましても、事前に協議、皆さん方からありましたら、ひとつ事務局のほうにご意見等のご案内を頂戴したいと思います。

それで、今説明がありましたように、今日以降のことにつきましては、今月いっぱいパブリックコメントを頂戴するように変更させていただいておりますものですから、来月の総合教育会議までに改めて教育委員の皆さん方にご案内をし、またご意見等も考え方につきましては賜りたいと思っております。

これは事務局、お一人お一人に一応連絡をしていただいて、確認をしてくださいね。

お願いいたします。

今現在来ております17の中の回答案の案として、このような回答を事務局では考えておるそうでございます。これにつきましても、皆さん方のご意見も考え方も賜りたいと思っております。

事務局にお伺いしますが、今現在、総社が決定をしていますね。岡山県初め今進行中ですね。その中で、進行中の自治体でこういうパブリックコメントを今もらっておる自治体、県で幾らぐらいあるのか、またその内容はどのようなものであるのか、ひとつ教育委員の皆さん方にも、岡山県内の県及び他市の状況等もわかる範囲でひとつ、月が変わりましたら、この今日以降のパブリックコメントが17プラス増えるでしょうから、それについて委員の皆さん方にご案内したときに参考になることもあろうかと思っておりますので、ひとつインターネット等で各自治体の総合教育会議における、今現在パブリックコメントをもらっておるところの情報をひとつ教えてください。

○事務局（佐藤課長） 今わかっている情報は、岡山県が今パブリックコメント中というようだけでございます。

○吉村市長 事務局、例えば岡山県のパブリックコメントを、県民の我々がそれに入っていくことができるんですか。

○事務局（佐藤課長） できます。

○吉村市長 例えば、今岡山県のパブコメは何件ぐらいある。

○事務局（佐藤課長） その情報、こちらからパブリックコメントを出すことはできますけれども、今何件あるということは……。

○吉村市長 わからないでしょう。

○事務局（佐藤課長） はい。

○吉村市長 はい、結構です。

この1、2、3につきまして、その他ご意見がありましたらお受けをいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○吉村市長 それでは、ないようでありますので、本日の会議はこれを持ちまして終了させていただきます。今日はどうもありがとうございました。